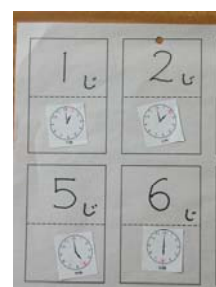
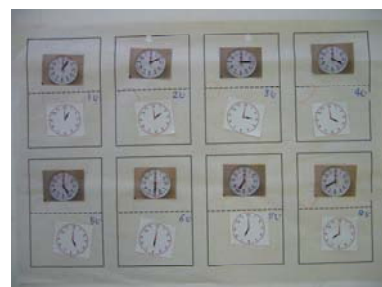
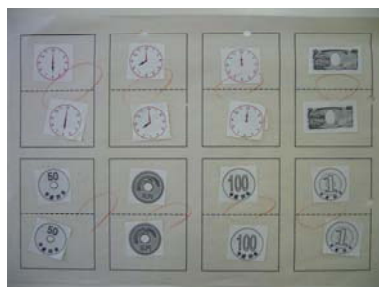
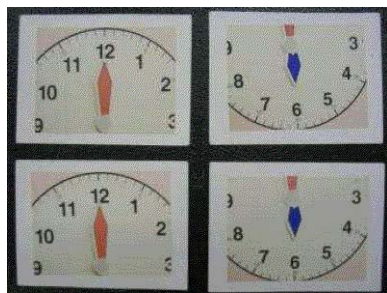


|       |          |          |       |
|-------|----------|----------|-------|
| 教材教具名 | 時計学習初期教材 | 教科( 算数 ) | 情報提供者 |
|-------|----------|----------|-------|

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 時計に興味を持ち、簡単な場合の時間を読む。
- 2 発達段階など 図や絵の部分の違いがわかる。20くらいまでの数字がわかる。
- 3 使い方
  - 時計写真のマッチング・・・2択で同じ時間を指している時計写真をマッチングする。
  - 複数組での時計写真のマッチング
  - 写真と絵の時計同士のマッチング
  - 時計の短針の数字を意識させる。
  - マッチングの隅に 時と書いたり、短針の指している数字に を つけたりして短針の先が時刻の読みとすることを定着させる。
  - 時計写真や絵を「 時」を答える。
  - 時計を見て「 時」シールを貼ったり「 時」を見て時計シールを 貼ったりして定着させる。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

認知課題としてタイムリーだったようで、1学期の途中から取り組み始めたが、週2回の算数時間内でのカードによる学習と毎朝のプリント学習だけで、机上では短期間で時計が読めるようになった。課題としては机上で動かない「時(ちょうど)」の時間は読めるようになっているので、日常生活の場面で使わせて時間を読むことの有用性を感じられる経験をさせていくことが必要であろう。家庭との連携で時間を意識させていくことも必要である。同様の写真マッチングの方法で「時半」の写真マッチング取り組み始めたが、1回ですぐ12組の「時半」の写真マッチングをできるようになった。